

大学生がつくる
若者のページ

一橋大学①
(国立市)

2月末にスウェーデンでのイベントNippon Dayを大成功させ、私たちMOSメンバーは日本へ帰国した。そして2週間もしないうちに、スウェーデンの学生10人が来日した。初めて見る東京の巨大さに彼らは圧倒されていた。日本でのホームステイ受け入れ中のメインイベントであるSweden Dayの開催は近づいてきたのである。これはスウェーデ



ンを日本の学生に紹介するイベントで、毎年六本木の在日スウェーデン大使館で行っており、今年は3月30日の開催だ。

イベントの前日、私たちは大使館を訪れ、会場の最終確認をした。スウェーデンの学生もそのおしゃれなデザインの建物でイベントができる

館で
アイスホッケーのゲームを楽しむスウェーデンと日本の学生
いずれも港区六本木のスウェーデン大使館

ことを喜んでいて。その後、合同で最終的なイベントの打ち合わせに臨み、私のつたない英語であるが、事前に作成した英語の資料のお陰でスムーズにミーティングは進行した。スウェーデンの学生と真剣に打ち合わせをしているときに、自分も将来には企業でこういった場面に出くわすのだろうという思いと、それに対する自信を感じることができた。

私たちは翌日のSweden Dayへ決起するため、夕食にしゃぶしゃぶを選んだ。しかも、食べ放題。どんどん出される肉に驚きを隠せないスウェーデンの学生たち。終了後は新宿のど真ん中で日本流の「門陣」を組んだ。肩を組み合い、「Sweden Day will be successful!」と叫んだのであった。

いよいよ当日、会場はスウェーデンのポスターなどで鮮やかに飾られ

「スウェーデン・デー」大成功

在日大使館での交流イベント盛り上がる

た。開始時間が近づき、参加者の学生がどんどん現れる。Sweden Dayの宣伝をいろんな広報手段を使って頑張った成果が報われたのだ。そして、イベントが始まった。まずはリンドストロム駐日スウェーデン大使にスピーチをして頂いた。大使はスウェーデンが福祉の面で世界のモデルケースとなっていることを述べられた。特に女性の社会進出支援や少子化対策において、日本はスウェーデンから学ぶべきところは多いのである。

私のスピーチの順番がやってきた。一橋大だけでなく、文系、理系

会場には、スウェーデンのファッションブランドの服が飾られた。カラフルな女の子向けのものからストリート系まで、スウェーデンの最先端のファッションショップが東京に1日限定オープンしたようであった。

また、スウェーデンと言えば音楽、というくらい、スウェーデンは音楽産業大国である。なんと世界第3位の音楽輸出国なのだ。会場にはスウェーデンの音楽を聞けるブースが設けられた。そして、スウェーデンの国技とも言えるアイスホッケーのボードゲームも設置され、両国学生の

ムボ」という同棲(せい)婚制度についての説明もした。この制度は同棲カップルに法律婚と同程度の法的権利を付与するもので、少子化対策にも役立っている。

今回のSweden Dayは単なるスウェーデンの文化や社会を紹介するだけでなく、ビジネスという視点を通して紹介しようというコンセプトがあった。スウェーデン関連企業が計画案を提示し、ブースも設けた。スウェーデンという国の魅力を生かしたビジネスやスウェーデ



スウェーデンデーでスピーチをする
筆者の藤井さん

や企業の方々からイベントの成功をたたえてもらい、私たちは今までの苦勞がすべて報われたのだ。その夜、両国のメンバー全員でカラオケスタジオへ行き、イベントの成功を祝って英語の歌を大合唱した。スウェーデン側のリーダーLarsとデュエッ